



# 米国株 MARKET PICK UP



## 先週の米国株式市場—地政学リスクの後退で上昇 ナスダックの上昇際立つ—

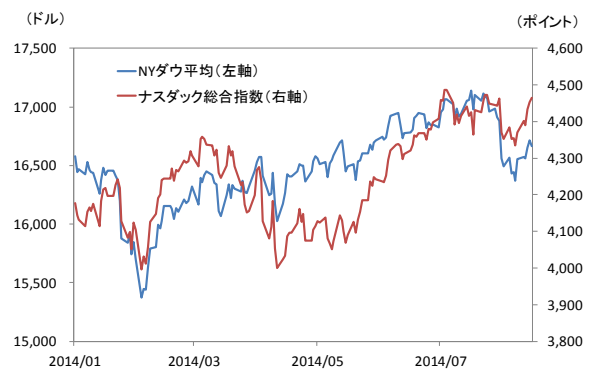
	前週終値	8月11日	8月12日	8月13日	8月14日	8月15日	週間騰落幅	週間騰落率
ダウ平均	16,553.93	16,569.98	16,560.54	16,651.80	16,713.58	16,662.91	+108.98	+0.66%
騰落幅		+16.05	-9.44	+91.26	+61.78	-50.67		
S&P500	1,931.59	1,936.92	1,933.75	1,946.72	1,955.18	1,955.06	+23.47	+1.22%
騰落幅		+5.33	-3.17	+12.97	+8.46	-0.12		
ナスダック総合指数	4,370.90	4,401.33	4,389.25	4,434.13	4,453.00	4,464.93	+94.03	+2.15%
騰落幅		+30.43	-12.08	+44.88	+18.87	+11.93		

### <先週の概況>

先週の米国株式市場は、地政学リスクの後退や要人発言による利上げ早期化観測の後退などから週間ベースで上昇しました。

ダウ平均の上昇率は0.6%と小幅にとどまった一方で、アップル(AAPL)やギリアド・サイエンシズ(GILD)が上昇を牽引したナスダック総合指数は2%を超える上昇となるなど、指数間で上昇率に差が出る結果となりました。

NYダウ平均とナスダック総合指数の推移



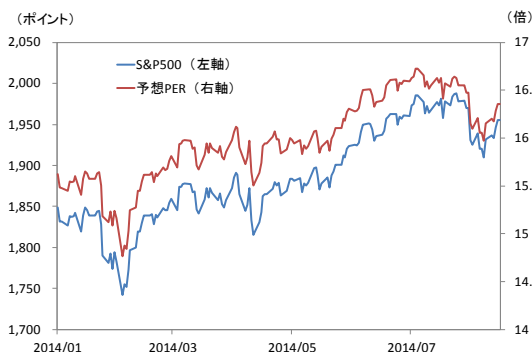
(出所) Bloombergのデータをもとにマネックス証券作成

## 米国株式市場バリュエーション

指数	予想PER (倍)	PBR (倍)	予想配当利回り
ダウ平均	14.7	2.9	2.3%
S&P500	16.4	2.7	2.0%
ナスダック総合指数	21.6	3.4	1.1%

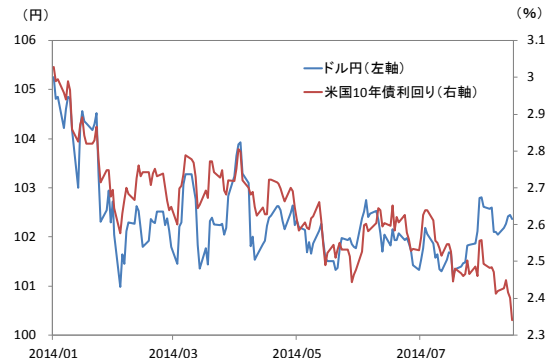
(出所) Bloombergのデータをもとにマネックス証券作成 (2014年8月15日時点)

S&P500と予想PERの推移



(出所) Bloombergのデータをもとにマネックス証券作成

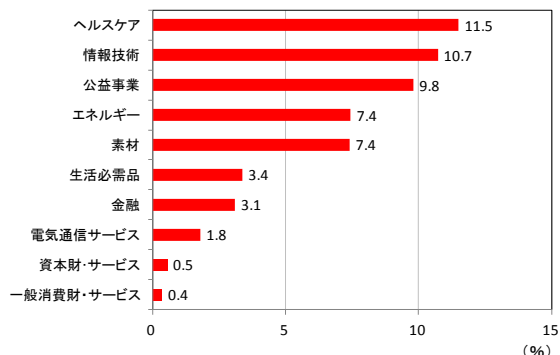
ドル円と米国長期金利の推移



(出所) Bloombergのデータをもとにマネックス証券作成

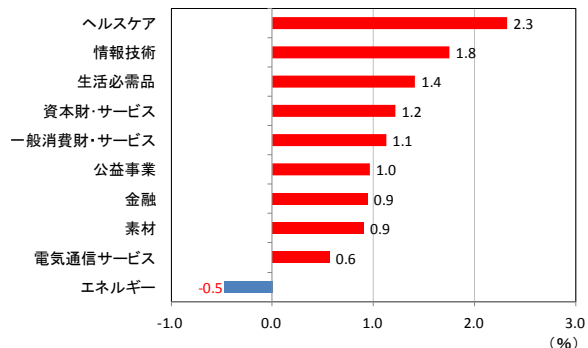
## 業種別リターン

S&P500 業種別年初来リターン



(出所) Bloombergのデータをもとにマネックス証券作成

S&P500 業種別週間リターン



(出所) Bloombergのデータをもとにマネックス証券作成

## ダウ平均採用銘柄 週間騰落率ランキング

値上がり率ランキング(8/11-8/15)

ティッカー	銘柄名	週間騰落率 (%)
INTC	インテル	4.8
MSFT	マイクロソフト	3.7
MRK	メルク	3.6
KO	ザ コカ・コーラカンパニー	3.6
DIS	ウォルト・ディズニー	2.8
CAT	キャタピラー	2.4
BA	ボーイング	2.1
TRV	トラベラーズ・カンパニー	1.8
UNH	ユナイテッドヘルス・グループ	1.7
HD	ホーム・デポ	1.5

(出所) マネックス証券作成

値下がり率ランキング(8/11-8/15)

ティッカー	銘柄名	週間騰落率 (%)
CSCO	シスコシステムズ	-2.4
CVX	シェブロン	-1.4
WMT	ウォルマート・ストアーズ	-1.0
AXP	アメリカン・エキスプレス	-1.0
XOM	エクソンモービル	-0.7
UTX	ユナイテッド・テクノロジー	-0.3
GS	ゴールドマン・サックス・グループ	-0.2
V	Visa	-0.1
GE	ゼネラル・エレクトリック	-0.1

(出所) マネックス証券作成

### <上昇>

インテル (INTC) はタブレット向け新型半導体の詳細を発表したことなどが好感され、週間ベースで5%近い上昇となりました。

### <下落>

シスコシステムズ (CSCO) は 13 日に 5-7 月期の決算を発表、小幅ながら減収減益となったことや構造改革費用として最大 7 億ドルを計上すると発表したことから売られました。ウォルマート・ストアーズ (WMT) は 14 日に 5-7 月期の決算を発表、増収増益で市場予想よりも好内容だったことから決算を受けて株価は反発しましたが、決算発表前に証券会社が格下げしたことなどから株価が大きく下落していたため、週間ベースでは小幅に下落しました。

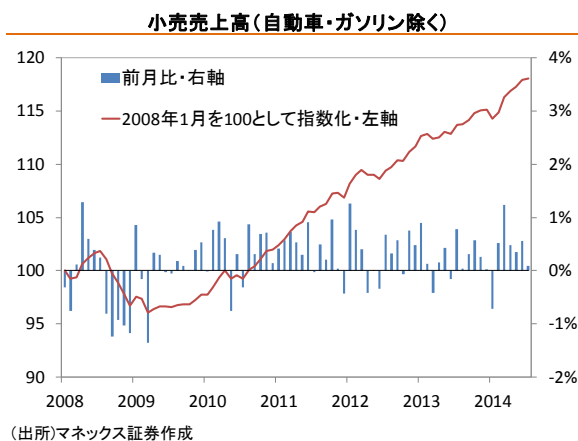
## 先週発表された主な経済指標

小売売上高（前月比） 7月 ±0% 市場予想 +0.2% 前月 +0.2%

小売売上高（自動車・ガソリン除く・前月比） 7月 +0.1% 市場予想 +0.4% 前月 +0.6%（上方修正）

13日に発表された小売売上高は前月比変わらずと0.4%増を予想していた市場予想を下回りました。変動の大きい自動車・ガソリンを除いた指数も0.1%増にとどまりました。

市場予想を下回り前月とほぼ変わらない水準にとどまったことは個人消費動向を確認する上でやや懸念されますが、自動車関連を除く指数の前月分が0.4%増→0.6%増に上方修正されたことから、現時点で過度に悲観する必要はないと考えます。個人消費は堅調な推移を続けていると思われる。



## 今後発表される主な経済指標

8月22日 イエレンFRB議長 ジャクソンホールで講演

22日にイエレンFRB議長が「労働市場」をテーマとした講演を行います。

この講演は毎年米国のワイオミング州にあるジャクソン市で行われるカンザスシティ連銀主催の金融シンポジウムの中で行われるもので、ジャクソン市が位置する谷の名前である「ジャクソンホール」という通称で呼ばれています。

前FRB議長であるベン・バーナンキ氏が2010年のジャクソンホールで量的金融緩和策第2段（QE）の実施を示唆し、11月のFOMC（公開市場委員会）で実施が決定された経緯があるため、今年の講演にも注目が集まっています。講演のテーマからして、直接イエレン議長が金融政策動向について言及する可能性は低いと思われるのですが、労働市場に対する議長の見方を示すものと思われ、そのメッセージが注目されます。

今年はイエレン議長だけでなく、ドラギECB総裁の講演も予定されており、合わせて注目が集まりそうです。

## マーケットビューー週末にジャクソンホールを控えて様子見地合いかー

先週のマーケットビューーでは良好な経済指標と堅調な企業業績を背景に、着実に押し目を拾える局面ではないかと記しましたが、先週米国株式市場は地政学リスクの後退などを好感して上昇しました。

今週は経済指標欄でも記した金曜日の「ジャクソンホール」でのイエレンFRB 議長の講演待ちとといった様相です。ウクライナ情勢動向が予断を許さないこともあって、上値の重い展開が見込まれません。

ただ、繰り返し述べている通り、米国のファンダメンタルズは極めて好調に推移しているため、もし大幅な調整となれば、押し目を拾える局面であることに変わりはないと考えています。

フィナンシャル・インテリジェンス部 益嶋 裕

### 利益相反に関する開示事項

マネックス証券株式会社は、契約に基づき、オリジナルレポートの提供を継続的に行うことに対する対価を契約先証券会社より包括的に得ておりますが、本レポートに対して個別に対価を得ているものではありません。レポート対象企業の選定はマネックス証券が独自の判断に基づき行っているものであり、契約先証券会社を含む第三者からの指定は一切受けておりません。レポート執筆者、並びにマネックス証券と本レポートの対象会社との間には、利益相反の関係はありません。

- ・当社は、本レポートの内容につき、その正確性や完全性について意見を表明し、また保証するものではありません。
- ・記載した情報、予想および判断は有価証券の購入、売却、デリバティブ取引、その他の取引を推奨し、勧誘するものではありません。
- ・過去の実績や予想・意見は、将来の結果を保証するものではありません。
- ・提供する情報等は作成時現在のものであり、今後予告なしに変更又は削除されることがございます。
- ・当社は本レポートの内容に依拠してお客様が取った行動の結果に対し責任を負うものではありません。
- ・投資にかかる最終決定は、お客様ご自身の判断と責任でなさるようお願いいたします。
- ・本レポートの内容に関する一切の権利は当社にありますので、当社の事前の書面による了解なしに転用・複製・配布することはできません。

マネックス証券株式会社 金融商品取引業者 関東財務局長(金商)第165号  
 加入協会: 日本証券業協会、一般社団法人 金融先物取引業協会、  
 一般社団法人 日本投資顧問業協会